



ワンポイントアドバイス 第1回「慣用句」

「弱みにつけ込む」のように、二つ以上の言葉が、習慣的に決まった形で結び付いて、ある特定の意味を表す言い回しを、慣用句といいます。慣用句が的確に使いこなせるようになれば、表現の幅が格段に広がりますが、うろ覚えによる誤用がしばしば見られます。

[気を付けたい慣用句の誤用例と、正しい使い方]

- ×食指を伸ばす → ○食指が動く
- ×白羽の矢を当てる → ○白羽の矢を立てる
- ×そっぽを向ける → ○そっぽを向く
- ×陣頭指揮を振るう → ○陣頭指揮をとる
- ×二の舞いを踏む → ○二の舞いを演じる
- ×論議を醸（かも）す → ○物議を醸す
- ×愛想を振りまく → ○愛嬌（あいきょう）を振りまく
- ×相槌（あいづち）を入れる → ○相槌を打つ
- ×喝を入れる → ○活を入れる
- ×激を飛ばす → ○檄（げき）を飛ばす など

このほかにも、色についての慣用句（「朱を入れる」「白（しら）を切る」など）、数についての慣用句（「二の足を踏む」「四（し）の五の言う」など）、体の部分についての慣用句（「胸を借りる」「肩を並べる」など）のように、慣用句はたくさんあります。本や新聞にもたくさん出てきますので、これは知らなかったというものに出会ったら、意味を確かめ、自分の語彙（ごい）の中に取り込んでおきましょう。

[一覧に戻る](#)